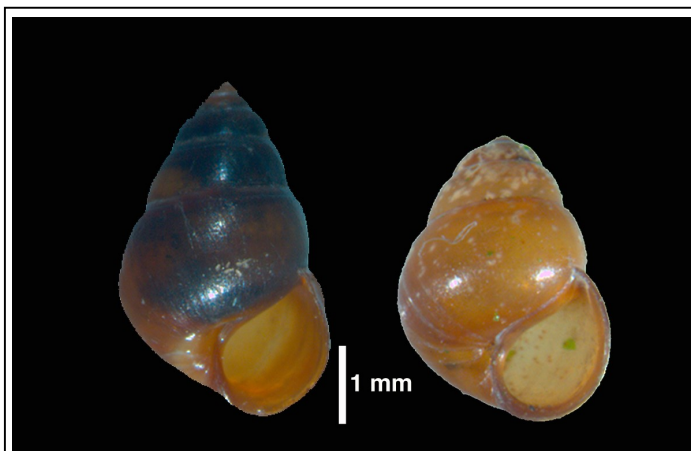


ヨシダカワザンショウ “*Angustassiminea*” *yoshidayukioi* (Kuroda)

【選定理由】

本種は、内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地とそれより上部の陸上植生にかけて分布する。県内ではヨシ原湿地やその上部へ連続する陸上植生は護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村, 1999)。特に、本種は他の内湾生のカワザンショウガイ科貝類と比較して生息帯が上部に位置するが、ヨシ原湿地の陸上に近い部分は護岸工事などで破壊されやすいため、生息場所の減少が心配される。県内のカワザンショウガイ科貝類としては最も絶滅の可能性が高い種と評価された。



矢作川河口, 1994年8月9日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 3 mm の微小種。カワザンショウガイ科は小型種が多く、形態的にも近似していて同定は難しい。本種は貝殻の光沢が強いこと、肉眼ではわかりにくいですが臍孔が狭いが開いている点で県内産の他種と区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内での生息場所は著しく減少したと考えられる。木村・木村(1999)では7カ所生息地があった。カワザンショウガイ科貝類は生息地には群生する場合が多いが、本種の個体数はどの生息地でも少ない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種の可能性が高く(朝鮮半島南部からの記録は未記載の別種)、北海道南部、下北半島、八郎潟～九州南部東京湾に分布する(福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなヨシ原湿地と上部の陸上植生にかけての、落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地と上部の陸上植生が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地と上部の陸上植生を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【引用文献】

福田 宏, 2012. ヨシダカワザンショウ, p. 46.in : 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.

(木村昭一)